

「どう計算しても原発は高い～地域から始める原発ゼロノミクス」

< 登壇者プロフィール >

邑上 守正（むらかみ もりまさ）

1957年（昭和32年）吉祥寺北町生まれ。中央幼稚園、市立大野田小、市立第四中学校、都立立川高校、早稲田大学理工学部建築学科（都市計画専攻）卒業。一級建築士・技術士（建設部門・都市及び地方計画）。都市プランナーとして、全国の市民参加のまちづくりを手がける。2005年（平成17年）年武蔵野市長初当選。現在3期目。脱原発をめざす首長会議会員。

吉原 毅（よしわら つよし）

昭和30年生、東京都大田区出身。麻布学園、慶応義塾大学卒、同年城南信用金庫入職。昭和58年企画部、自由化・国際化対策推進プロジェクトチーム、平成元年企画課長、平成4年企画部副部長、平成8年常務理事・企画部長、平成10年常務理事・市場本部長、平成12年専務理事・事務本部長、平成14年専務理事・業務本部長、平成18年副理事長、平成22年理事長。学校法人麻布学園理事、FKINYU 創立メンバー。原子力撤廃を標榜し、太陽光発電などによるクリーンエネルギーの導入を推進している。経営理念は「人を大切にする、思いやりを大切にする」「原発に頼らない安心できる社会へ」。

三上 元（みかみ はじめ）

1945年（昭和20年）新所村日之岡（現：湖西市）に生まれる。慶應義塾大学卒。西友ストア、船井総合研究所などを経て、2004年に湖西市長に当選、現在3期目を務める。同時に「浜岡原発の廃炉を求める」訴訟の原告団に加わっている。脱原発をめざす首長会議会員。ブログ「湖西市長 三上元の選択」<http://pikagen.hamazo.tv/>

上原公子（うえはら ひろこ）

宮崎県宮崎市生まれ。法政大学文学部史学科卒業。同大学院人文科学研究科中退。東京・生活者ネットワーク代表や国立市議会議員を経て、1999年に国立市長選挙に出馬し、当選を果たした（東京都初の女性市長）。2期8年間国立市長を務め、退任。現在、自治体議員政策情報センター長、脱原発をめざす首長会議・事務局長。「平和を生み出すまちづくり」「協働参画のまちづくり」などで講演多数。著書に『しなやかな闘い』（樹心社）ほか。

ゼロノミクマ

原発をゼロにするために全国をかけまわる緑のクマのゆるキャラ。「ソーシャルキャラクター」として活躍中。原発ゼロノミクス・自然エネルギー・コミュニティパワー・福島支援・子供たちの未来・省エネ・各種院内集会・脱原発法の制定・脱原発議員や候補者の支援など、脱原発につながる取り組みやイベントに積極的に出かけている。特技はダンスとピアノ。あなたの街にも、ぜひ呼んでください。<http://zeronomikuma.com/>

<地域から始める原発ゼロノミクス～取組み紹介>

NPO こだいらソーラー（東京・小平市）

3.11 後、市民が力を合わせて地域のエネルギーシフトをめざそうと、こだいらソーラーを設立。地域にできるだけ多くの太陽光市民共同発電所を設置することをめざす。市民のお金と力を集めて市民共同発電所をつくることで、遠くの巨大なエネルギーへの依存構造を問い直し、エネルギーのことを身近に考えるきっかけとし、市民同士が連携してまちづくりに取り組むことにつなげたい。幸い、2013 年 2 月、こだいらソーラー市民発電所第一号の設置を果たした。現在、第 2 号プロジェクトが始動中。

2012 年 4 月 任意団体こだいらソーラー発足

2012 年 10 月 NPO 法人設立総会

2013 年 2 月 NPO 法人格取得、設立フォーラム開催

2013 年 2 月 こだいらソーラー市民発電所第 1 号設置 <12kW>（小平市学園西町）

2013 年 6 月 こだいらソーラー市民発電所第 2 号設置プロジェクト開始

む～ソーラー（東京・武蔵野市）

む～ソーラーは、武蔵野市民による「まちなか発電所」づくりをめざし、今年 7 月に立ち上がりました。メンバーは、3.11 後の生き方を模索する活動に取り組む市民、井の頭の自然と触れ合う活動に携わる市民、温暖化防止と再生可能エネルギーへのシフトに取り組む NPO メンバーなどです。キックオフ学習会を 9 月 20 日に開催、現在 1 号機パネルを設置していただけますかと、各方面で交渉の真っ最中です。また、市民の皆さんに安心して投資していただくための仲間づくり組織づくりを研究中です。第 2 弾学習会は 11 月 30 日「シェーナウの想い」上映と共に、む～ソーラーのキャラクター「エネなおじさん（仮称）」づくりも！「電気を使う側から、つくる側へ」武蔵野から「原子力に頼らない社会づくり」を発信していきます。

みたか市民共同発電を考える会（東京・三鷹市）

私達は、人の命や健康を脅かすことのない持続可能な循環型の社会・分散型エネルギーシステムを地域からつくっていくことを目的としています。そのために、様々な取組みと連携し、地域において主体的に活動していくひとを増やし、省エネルギー啓発活動や、太陽光発電等再生可能エネルギーの普及活動に取り組んでいきます。このような目的を達成するために、学習事業、市民共同発電事業、省エネ・再生可能エネルギーに関する支援事業、交流事業、協賛者募集事業、などの活動をしていきます。

現在は、三鷹環境市民連、三鷹商工会、さよなら原発三鷹アクション、医療と福祉を進める会などの団体に所属し、地域で社会貢献活動を主体的に行っている人々が集まって、太陽光発電所ネットワーク東京交流会のサポートをうけて活動をしています。

現状は、売電の固定買取価格の関係上、今年度中に東電との契約を結ぶことを目指し、太陽光パネルの設置場所を探しと、その市民共同発電事業のための組織作りを進めています。

エスラボ（一橋大学）

2011年3月11日に東日本を襲った大震災、それに伴って生じた福島原子力発電所の事故が発生し、この間、福島原子力発電所からは、放射能が極めて広範囲に渡って放たれ続けています。ここ一橋大学のある国立市も、そうした地域に含まれています。

この事故が、いったい、いつ収束するのか。また、これからの未来の生活に、どのように影響してくるのか。こうした不安な問いに対して、はっきりと分かっている事は未だに、ありません。

しかし、この未曾有の原発事故は、私たち一人一人が、エネルギーの事についてそれぞれ考えなくてはならない、ということと同時に強く教えてくれるものでもありました。自らの頭で考え、自らの足を使い、自らのできることを、仲間や地域の人々と、考える必要性を感じています。

学生サークル、エスラボは、そうした中で、一橋大学社会学研究科に所属する学生が中心となり、2011年5月に組織されました。私たちは過去に学び、今を知り、そして未来へ向かって「足元から考える」ことをモットーにしています。

<主催・協力団体紹介>

eシフト：脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会

2011年3月11日の福島第一原発事故を契機に、脱原発と自然エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー政策を実現させることを決意した、団体・個人の集まり。

- 1 「事故被害の最小化」と「責任所在の明確化」
- 2 「脱原発と持続可能なエネルギー政策に向けた政策提言づくり」と「その実現」
- 3 「市民への有益な情報発信」と「社会的ムーブメントの巻き起こし」

の3つの分野で活動を展開する。 <http://e-shift.org>

原発ゼロノミクスキャンペーン

「原発ゼロノミクス」：株価を上げインフレにすれば”生活はよくなる”というアベノミクスより、日本の足かせとなっている原発依存を脱し、市場の価値転換にそった新しい経済や、省エネ、自然エネルギーなどの、地域に根ざした多様な産業を振興したほうが、より抜本的な日本経済の活性化、健全化につながるとする経済政策論。シンポジウムやセミナー開催、ゼロノミクマなどで、普及啓発活動を行なう。参考：eシフトブックレット Vol.4「原発ゼロノミクス～脱原発社会のグランドデザイン」合同出版、650円

後援： 脱原発をめざす首長会議

賛同団体： オレンジロード、原発のない暮らし@ちょうふ、さよなら原発！三鷹アクション、さよなら原発！小金井パレード、脱原発と平和を武蔵野市からすすめる市民の会、

フクシマを思う実行委員会、むさしの市民平和のつどい実行委員会、

武蔵野生活クラブ運動グループ地域協議会、武蔵野生活者ネットワーク、

NPO 法人 ごみ環境ビジョン 21、NPO 法人 中野・環境市民の会

協力： パタゴニア日本支社